

FUKUI DAIZU 情報

福大豆

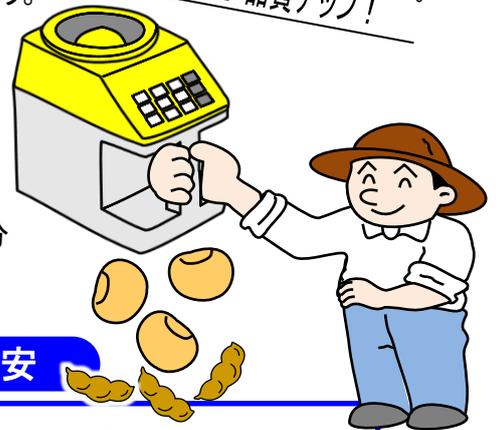
No.9

ようやく秋らしくなってきましたが、まだまだ残暑厳しい日が続いています。大豆栽培も終盤を迎え、収穫に向けて葉の黄化が進んでいます。今後は生育状況と天候を確認しながら収穫時期を見極め、刈取作業の準備を始めましょう。

刈取判断は、水分測定をしてから。適期収穫で収量・品質アップ！

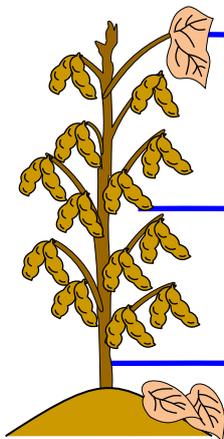
1. 適期刈取の徹底(高品質大豆の仕上げ作業)

- ① 収穫前の雑草等の除去
汚損粒の原因となる大型化した雑草や青立ち株は抜き取る。
- ② 大豆収穫適期の目安
高品質大豆の集荷・販売と円滑な乾燥調製作業を行うため、刈取水分(22%以下)の厳守をお願いします。



早刈りは汚損粒の増加、刈遅れはしわ粒の増加に!!

刈り取りの目安

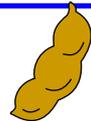


葉



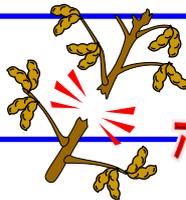
落葉期 : 葉や葉柄が黄変して落ちる。また、手で触ると簡単に落葉する。

莢



莢成熟期 : 茎が黄化して2週間経過後、莢は褐色化し茎を揺さぶるとカラカラと音をたてる。

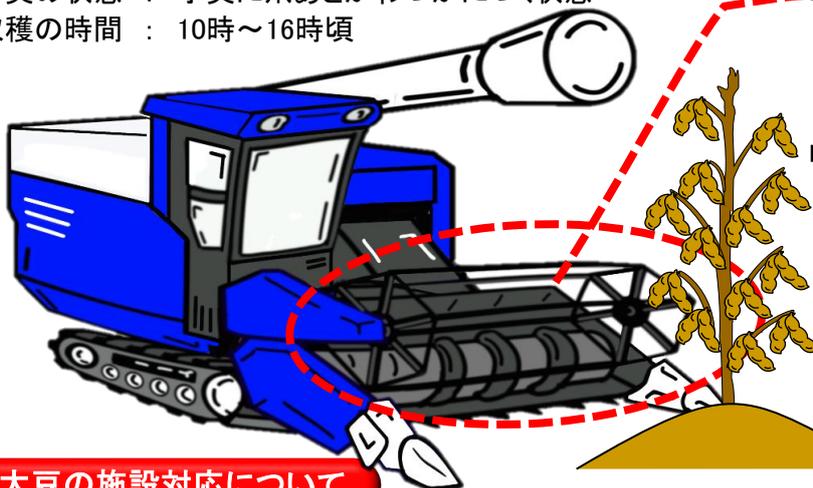
茎



茎水分60%程度 : 莢と同色の褐色をしている。茎がポキッと折れる。

2. 大豆刈取のポイント

- 子実の状態 : 子実に爪あとがわづかにつく状態
- 収穫の時間 : 10時～16時頃



■ 刈り高さの調整

土をすくい上げると汚損粒が発生します。着莢位置を確認しながら、できる限り高刈りに調整します。

■ 汚損粒が発生した場合

汚損粒は全て取り出して、きれいな大豆と一緒に混ぜない。土をすくい込んだ場合は、すぐに機械を止め、プラットホーム上の土を取り除く(清掃と点検)。



3. 大豆の施設対応について

秋の天気は変わりやすく、収穫作業ができる日数は限られています。刈取は子実水分の測定を行い計画的に作業をしましょう。大豆の荷受けについては大豆刈取前に各センターへお問い合わせ下さい。また、大豆施設搬入時に生産工程管理日誌を提出下さい。